



撮影協力/阿賀町立三川中学校

伝統ある合唱組曲『阿賀野川』をバンドでロック調にアレンジ

合唱×ROCK「阿賀野川」プロジェクト

Swallowtail*Queenbee and Minami

(スワローテイルクインビーアンドミナミ)

ミナガワトオルさん(左)、Minamiさん(中央)、Saeさん(右)のほか、和徳さん、LEONさんを含めた5人のバンド。合唱組曲『阿賀野川』をロック調にアレンジした。

初志貫徹

ミナガワさんの「人生のテーマ」。最初に決めた志は最後まで貫き通す、という意味。

旧三川村の雄大な自然と希望の光が描かれた『阿賀野川』

阿賀町の三川中学校に歌い継がれている合唱組曲『阿賀野川』。昭和42年の羽越水害を題材に、旧三川村(現阿賀町)の豊かな自然と將軍杉、水害の恐怖、友を失った悲しみ、そして復興へと立ち上がる希望が描かれた、5つの小曲からなる壮大な組曲だ。同校では毎年秋に生徒による発表会を開いており、昨年は節目となる20回目を迎えた。

地域に根付き、歴史ある『阿賀野川』をロック調にアレンジしたのが、5人によるバンド「Swallowtail*Queenbee and Minami」。リーダーのミナガワさんは同校出身で、合唱組曲を歌った経験もある。「中学1年生の頃、発表会で聴いた時にとっても感動したんです。初演発表会のCDは今でも聴いていますし、常に自分の中に流れている曲なんです」とミナガワさん。大好きな曲だからこそ、「いつまでも歌い継がれ、聴き継がれる新しいカタチ」として合唱曲をロック調にアレンジしようとして企画した。

「日常で聴きやすいアレンジ曲を地域おこしにつなげたい」

原曲は大きく崩さずに、ギターやベース、ドラム、三線、ピアノによる伴奏と女性ボーカル2人による歌声で『阿賀野川』の世界観を表現した。「ロックにすることで、合唱の感動が薄れるような仕上りにしたくはなかった。様々な楽器を取り入れる事でプラスに表現できたとと思います」。

実際に災害に遭った人々、作詩作曲者の想いを大切に、編曲にあたった。合唱で美しく聴こえるハーモニーも、バンドではそうとも限らない。音合わせにはとても苦労したという。「この曲は鎮魂歌であり、辛い経験から立ち上がる人々の姿や希望が一番のテーマ。一歩踏み出す勇気を、曲の4番と5番で感じてもらえたら」。

アレンジ曲『阿賀野川(仮タイトル)』は7月中旬にCDの発売を予定、地元や新潟市内などでも曲を披露する計画だ。「料理をしながら、運転しながら、日々の生活のなかで聴いてもらいたい。奇麗な山や川の風景を想像して、阿賀町に行ってみたい、原曲の合唱曲を聴いてみたいと思ってもえたらうれしいですね。アレンジ曲を地域おこしにつなげていきたい」。新たな曲に生まれ変わった『阿賀野川』には、多くの可能性が秘められている。



右_このプロジェクトのために集まったバンド、Swallowtail*Queenbee and Minamiの5人。ライブ情報は「阿賀ロック」で検索、HPへ。左_日本有数の大河、阿賀野川。